

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



株式会社マルハン（京都市）と避難場所開設に関する協定を締結。指定避難所の混雑時、車中避難所として西脇店が立休駐車場（約160台）を提供します。（1月12日、西脇市役所）



西脇工業高校生徒による出前授業で、桜丘小6年生がプログラミングを学習。レゴ社の「We Do」を使い、モーターやセンサーが付いた車両を動かしました。（12月23日、桜丘小学校）



教員の指導力の向上を目指す「がんばる先生応援事業」で、小中学校の教員が、読解力や英語科の指導、教材の開発に関する研究の成果を中間発表しました。（12月25日、市民会館）



新春イベントで、親子連れが魚釣りや一年の運勢を占うおみくじや、手作りの獅子舞などが並ぶフォトスポットで記念撮影を楽しみました。（1月4日、茜が丘複合施設みらいえ）

震災から丸26年の日に地域で防災訓練

〔1月17日 富田町公民館〕



訓練では名前や住所などの情報を書き込んで緊急時に役立つ「災害・避難者個人名札」を作成

阪神・淡路大震災から丸26年を迎えた17日、富田町では自主防災組織が中心となり、震度7クラスの地震発生を想定した避難訓練を実施。公民館へ避難した地域住民約50人は、入り口で手指消毒や検温を行ったあと、市職員の説明を受けながら、コロナ禍における避難所の運営方法を学びました。

イチゴ狩りに児童大喜び

〔1月13日 篠田いちご園〕



篠田さんによると、晩秋に寒い日が続いたことで、今年のイチゴは上々の出来

篠田いちご園代表の篠田重一さんが、芳田小1年生を同園に招待しました。子どもたちにイチゴ狩りを楽しんでもらおうと、平成16年から続く取り組み。手指消毒後にビニール手袋をつけた児童13人は、代表品種「章姫」に「甘くておいしい」などと歓声を上げ、赤く熟れた実を次々に口に運んでいました。

学校給食で災害時の食事体験

〔1月15日 小中学校、しばざくら幼稚園〕



防災給食は市内全体で約3,500食を提供。昨年に続き、2回目の取り組み

災害時の食事を取ることで、子どもたちに防災について考えてもらおうと、小中学校としばざくら幼稚園で防災給食を提供しました。献立は炊き出しの定番のおにぎりや豚汁など。断水による水不足で手洗いや食器洗いができないことを想定し、子どもたちはビニール袋を使っておにぎりを握りました。



シェイクアウト訓練



目黒巻を取り入れた授業

阪神・淡路大震災が発生した1月17日を前に、小中学校で避難訓練や防災学習が行われました。西脇中学校では、シェイクアウト訓練を実施。地震発生を知らせる訓練放送が校内に流れると、生徒らは一斉に机の下に潜り、地震から身を守る体勢を取りました。また、震災の犠牲者に黙とうをさ

さげたあと、大学教授が考案した「目黒巻」と呼ばれるトレーニングツールを使い、被災時の自身の行動や周囲の状況を想像。一人一人が震度6弱の地震発生時の季節や天気、時間帯などを自由に設定した上で、考えた内容を時系列で用紙に書き込み、日頃の備えの大切さを学びました。

1・17を前に学校で防災学習
〔1月15日 小中学校〕



新成人を代表してあいさつする荻野捺実さん（右）

公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会主催の「成人祝いのつどい」が開催され、聴覚障害者協会や手話サークルのメンバーらが、県内在住の聴覚に障害がある新成人12人を祝福しました。式典は、手話を交えながら仲間同士で新成人を祝おうと、「兵庫県ろうあ者新年大会」を兼ねて毎年開かれており、

手話で新成人祝福
〔1月11日 市民会館〕



第2部で「二十歳」をテーマにした意見交換も

今年にはコロナの感染者が急増する中、会場内や入場者のルール設定を厳重に行い、開催に至りました。荻野捺実さんは「つらいことがあっても頑張ることができたのは、友人や両親という心の支えがあったから。社会人としての自覚を新たにし、毎日を一生懸命に生きていきます」と決意を語りました。

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中！